

平成27年度
中間市総合教育会議
(第3回)

- | | | | |
|---------|----------------------|----------|------|
| 1 日 時 | 平成27年11月9日(月)午後3時00分 | | |
| 2 場 所 | 市庁舎 本館 第一委員会室 | | |
| 3 出 席 者 | 松下市長 | 河本委員長 | 中尾委員 |
| | 衛藤委員 | 増田教育長 | |
| 4 事 務 局 | 藤崎総合政策部長 | 蔵元企画政策課長 | |
| | 濱田教育部長 | 田中教育総務課 | |
| | 片平学校教育課長 | 古賀生涯学習課長 | |
| | 江藤教育総務課総務係長 | | |
| 5 傍 聴 人 | なし | | |
| 6 議事日程 | 別紙のとおり | | |
| 7 議事次第 | 別紙のとおり | | |

総合教育会議議事日程

平成27年11月9日（月）午後3時00分

1 開会

(1) 市長あいさつ

2 議事

(1) 平成28年度教育事業について

3 その他

4 閉会

<配布資料>

・平成28年度 新規教育事業案

[開会時刻：午後3時00分]

濱田教育部長 では、ただいまから平成27年度第3回中間市総合教育会議を開催いたします。それでは、会議次第により会議を進めさせていただきます。
まず、最初に松下市長よりご挨拶をいただきます。

松下市長 皆様方こんにちは。総合教育会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。ご承知のとおり、文化芸術スポーツの秋でございまして、美術展をはじめ、昨日は生涯学習センターの文化祭等々盛んに行われております。また、小学生の相撲大会等々も行われておりますし、やっちゃん祭り、筑前祭、これは武蔵丸の親方に来ていただいております。ポンプ室世界遺産の式典が21日ございますが、それに対しましても、皆様方の協力をお願いしたいと思っております。学校の耐震化を含め、また、中学校の給食実施、エアコンの設置等々ですね、教育関係の整備は進めてきたところでございます。また、教育、特に学力の向上等々に力を入れていきたいなとそんなふうにも思っておりますので、その他教育等々、よろしくお願ひしたいと思っておりますし、また、いろいろな計画等々の中で、皆様方のお知恵をお借りして、教育の発展につながるようにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

濱田教育部長 ありがとうございます。これより議事に入らせていただきます。議事は、市長に進めていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

松下市長 それでは、早速、議事を進めさせていただきます。平成28年度教育事業についてでございます。

増田教育長 はい。市長、よろしいですか。
前回、第2回総合教育会議におきまして、今回の議事内容についてということで、今回の議事内容につきましては、新規の教育関係の施策について、ご提案を申し上げるということで了解をいただいております。10月6日に開催致しました定例教育委員会において、各課長から新年度取り組みたい事業について提案がっております。それで、各課長より、それぞれ新しい施策について説明させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

田中教育総務
課長

はい。教育総務課です。説明させていただきます。まず、事業名ですが、学校施設整備事業ということで、トイレ改修を提案させていただきます。

市内の小中学校のトイレの現在の状況は、平成17年度から順次、老朽化対策や洋式化を目的とした一部改修工事を行いましたので、約40パーセントのトイレが、衛生的で明るい環境となり、また、洋式トイレとなっております。一方、改修を終えていないトイレは、建築後30年から40年が経過いたしまして、扉の破損、壁のはがれ、漏水など、老朽化が顕著であり、暗い、汚いというイメージが持たれているところでございます。

また、家庭のトイレのほとんどが洋式トイレとなっていることから、より一層の洋式化が望まれており、特に、小学校の新1年生の中には、和式トイレに不慣れであるため、トイレを我慢するといったこともあるとこのことでございます。このような問題を解消するために、教育総務課では、平成28年度から3年計画で、トイレ改修を進めさせていただきたいと考えております。

事業計画といたしましては、平成28年度に、都市整備課に依頼し、実施設計を行います。それから、29年度に小学校3校と中学校2校、30年度に、小学校3校と中学校2校の改修工事を実施したいと考えております。

事業費については、28年度は実施設計を都市整備課に依頼するためかかりません。29年度と30年度は、改修工事費として、各年度8,700万円を計上しております。

なお、この事業は、学校施設環境改善交付金を活用し実施することとされていますので、事業費の3分の1の補助があります。

最後に、このトイレ改修工事により、施設の老朽化解消や洋式化を促進することが可能となり、中間市の児童生徒の快適な学校生活につながっていくものとなります。以上、説明を終わらせていただきます。

片平学校教育
課長

続きまして、学校教育課です。国または県の喫緊の課題、これは学力向上が課題となっております。中間市でも、まさしくそのとおりでございますが、特に中間市では、英語教育を中核として、中間市の特色を売りしたいと考えております。子どもたちの、放課後を活用した学力向上、要するに英語教育について説明していきたいと思っております。「小学生放課後イングリッシュ チャレンジ スクール」と「なかま放課後 キッズ イングリッシュ スクール」で、それぞれ4ページ、5ページにございます。

まず、小学生放課後イングリッシュ チャレンジ スクールは、小学校5,6年生、3,4年生もここに含めて書いておりますが、特に5,6年生を

対象に、児童英検、大人でも英検がございますが、これの児童版ですが、この児童英検の受験を目標に、英語の学習を進めていきます。チャレンジできる子どもを育てていく。場所は、市内の小学生が通える中心部にある子育て支援センターの2階を使わせていただきたいと考えております。時間は、6時から7時の1時間です。指導者は、専門的に行っている業者への業務委託とさせていただきたいと思っております。希望参加といたしますが、要件を児童英検にチャレンジする意欲や意志のある児童、それと、子育て支援センターに保護者が送り迎えできる児童とします。定員は、5、6年生各30名程度と考えております。そして、ここには、そういったチャレンジをしていく子どもたちを集めますが、各学校でも同じような形で進めたいと思っております。この学校で進める分につきましては、保護者の送り迎え、送迎は必要ありませんが、これについては、なかま放課後 キッズ イングリッシュ スクールとして、3、4年生の希望者全員を対象といたします。これは、希望者全員です。イングリッシュ チャレンジ スクールに漏れた子どもたち、行けない子どもたちを、全部ここでカバーしようと考えています。そして、学習時間は放課後30分です。ALTの勤務時間、教職員の勤務時間などを考えて、30分程度、ALTや英語活用アドバイザーが指導していきます。5、6年生になってチャレンジスクールに希望する子どもたちを育てていきます。ここでは、英語に慣れ親しむために子どもたちに対して教育をさせていきたいと思っております。

続いて、中学生に対してでございますが、資料の2ページをご覧ください。放課後ではなく、学校活動の中でございますが、中学生が使える英語プロジェクトといたしまして、ALTを1名増員してですね、中学校に常駐させることによって、日常の英会話、ちょっとした会話を英語で行うということです。日常の英語力が高まるということにつながりますので、そういったことで、ALTを1名増員させていただくと。中学校4校ありますが、この4校に2名を隔週ごとに常駐させるというようなことで考えております。

続きまして、3ページをご覧ください。学力UP推進事業です。これは、学力向上、英語に特化しておりません。すべての学力向上の推進事業として、学習が難しくなる小学校3年生から中学校2年生まで、全国学力状況調査でございますが、このテストと同様のテストを行ってですね、各学年の経年変化等を見ながらテストに慣れるとか、そういったところで学力を高めて、または教師の指導力を高めるために、各学年で学力状況調査を同一の日に実施したいと考えております。以上でございます。

古賀生涯学習
課長

続きまして、6ページから、生涯学習課の案件をご説明いたします。

まず、事業名は夏休み小学生英語キャンプ事業でございます。この事業は、夏休みの期間中に全小学校の5年生を対象とした英語キャンプを実施いたします。この英語キャンプの中では、学校のように、机があって後ろにホワイトボードがあるというそういう授業ではなくて、日常生活、例えば、おはようございます、おやすみなさい、それから座談会、そういうところから、英語をしゃべることよりも、英会話に馴染むというところを目的としたキャンプでございます。時期は、8月の8日、9日、10日、11日あたりが、少し学校授業等が空くということでございますので、こちら辺で、1泊2日で遠賀ふれあいの里で行いたいと思っております。児童生徒さんからは、食事代として、自己負担1千円から2千円の間で考えております。なお、この授業につきましては、市役所にありますALTの先生、それから、元校長先生たちのボランティアグループで、イーアクティブというグループと、それと、市役所の前にあります幼児英会話教室で開催されておられますハースサイドさん等にもご協力をお願いしまして、講師まず教師として8名、それとキャンプの指導者として2名、計大人10名、それプラス、私たちが当然行きますが、そういうふうな形でこのキャンプをやりたいと思っております。

次に、7ページ、これは福岡県のアンビシャス広場づくり事業というものを選びたいと思っております。これは、先程から、学校教育課の方からも説明がありました、放課後子ども教室、放課後子ども対策としまして、ここでも英語やいろいろなことができます。これの目玉は、何よりも補助金の対象となることです。1校が最大150万円で、国3分の1、県3分の1、市3分の1ということで、27年度は、試行として、来年の1月から3月まで底井野小学校をモデル校としてやりたいと思っております。また、28年度、新年度は同じく、底井野小学校をモデルに、1校だけですが、1年間を通して行いたいと思っております。

次に8ページ、中間市ひと・まち・みらいスポーツ健康フェスタ事業というのを行いたいと思っております。事業概要としましては、本年6月15日に学校法人日本体育大学とスポーツ振興に関する協定を締結したことにより、次世代を担う青少年の健全育成と親子3世代の健康増進を目指すことを目的に、幅広い世代で楽しめるニュースポーツ、今回はアジャタ（玉入れ競技）ということをやりますが、そういう大会や、日本体育大学より、今のところ田中理恵講師をお招きして、貴重な体験話などを聴き、また、会場内では、健康増進課や介護保険課等のいろいろな健康に関する相談とか窓口等を行っておりますし、外では、中間グループのような形で多くの

市民に参加していただくような、フェスタ形式で行いたいと思っております。大方の予算は、180万円を予定しております。なお、この部分につきましても、スポーツ振興くじ助成事業として申請を致す予定でございます。採択されるかどうかは別としまして、補助事業になるような努力は行っていきたいと思っております。

それから、9ページでございます。事業名は日本体育大学出身アスリートによるスポーツ研修会事業ということで、同じく日本体育大学の方にスポーツフェスタとは別で、希望なのですが、各学校にメダリスト等を、もしくは、スポーツに関するお話を聞けるような方をお招きして、各学校へ回ってもらうという形の事業を、日本体育大学と今から協議をしながら、実現可能になるようがんばっていききたいと思います。なお、ここの部分について、この50万円の部分につきましても、スポーツ振興くじ助成事業が受けられるような申請を行うつもりでございます。

最後に10ページで、スポーツ推進計画策定事業というのをあげております。これは、スポーツ振興並びに体育施設の適切な配置及び整備など、スポーツに関する事業について、スポーツ推進計画を立てるということで、スポーツ基本法において、国及び地方公共団体は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即した中・長期的なスポーツの推進に関する計画を立てなさいとなっておりますので、28年度にこの基本計画の策定をやりたいと思っております。

それから、最後に11ページでございます。これは、中間市民俗資料館台帳作成事業といたしまして、中間市では、数多くの資料館の資料、民具資料で約2,000点以上、それから、紙資料で5,000点以上というふうな形で、いろいろな資料がそのまま整理がつかず置いてある状態でございますので、来年度から臨時職員を2名ほどお雇いしまして、3年間にわたって整理をしていきたいというふうに考えているところでございます。予算的には312万円でございます。以上でございます。

松下市長

はい、説明をいただきました。

28年度の新規教育事業については、教育委員の皆様方は、今日初めてお聞きになるのですかね。事前にその説明はされてあるのか。

田中教育総務
課長

10月6日の教育委員会の時に、少し提案させていただきました。

増田教育長

はい。資料等で教育委員さんには説明しております。それで、市長の思いでこういう事業もあった方がいいのではないかと、また、教育委員さんた

ちの意見もあると思います。これがすべて今から予算が通るわけではないと思いますので、これを受けて真剣に、財政課と協議して予算がとれるように努力して参りたいと思います。

松下市長

この機会に、皆様方のご意見、これ以外にもご提案があれば、一緒に話を聞かせていただければと思っております。私に話がきたから、それはそれでOKかといえ、そうはいきませんので。大変厳しい財政状況でございます。日頃からご理解いただきたいことは、やはり、少子化、人口減社会がきておりました、それに合わせて、年々税収が少なくなってきました、国からの交付税というのは、それに合わせて増えるのが流れなのですが、逆に、それと同じように、国からの交付税が減ってきております。財政的に大変厳しくなっております。今、財政が厳しいというあたりは、皆様方、頭の中に入れてもらいたいなど。まずそれが大事ですね。

少子化対策を県に先駆けてやっているところなのですが、今回、英語に特化しますよというその話ね。これも極端な話をすれば、こういうふうなことで、若い方が移り住んでくれたらなというそういう思いもあります。それは、子どものためのこともありますよ。今から、英語とパソコンは絶対必要要件ですから。しかしながら、中間市は教育に力を入れていきますよということになるという部分があれば、若い方は当然移り住んでくるという、そういう側面も考えながらの話なのです。

今、事業のお話をお聞きして、これができればいいなという思いもありますが、トイレの改修は、課長が説明したように、17年度から工事をしたはずだが。

田中教育総務
課長

一部改修でしたので、半分も終わっていない状況です。

当初の計画では、一巡したあとに、引き続き改修工事をする予定でしたが、耐震工事を最優先で進めるということで、耐震工事が終わるまで、凍結というか待っておこうということになりました。そして、教育委員会としては毎年、来年度の予算について学校からヒアリングをするのですが、洋式トイレの要望も多く出ております。

松下市長

洋式ばかりにしてもいけないよね。ウォシュレットにするわけではないわけ。

田中教育総務
課長

そうではありません。洋式にするといいましても、やはり和式でないと嫌と言う子がおりますので、各ブースに和式を1つ残すつもりはあります。

松下市長	学校の耐震化は済んでいるのかね。
田中教育総務課長	はい。耐震工事はおかげで早めに終わりました。
松下市長	一律に1校いくらと計算してあるが、学校で数が多い、少ないとかあるのかな。
田中教育総務課長	はい。それを全部足して、平均的に出させていただきました。
松下市長	これで、どうなるのか。80パーセントか。
田中教育総務課長	いいえ、これで改修工事が終わります。
松下市長	終わるのですね。わかりました。もう1つ、私自身が学校で気になることは、いじめによる自殺の関係ですよ。最近、いじめにあつて自殺する子が出てきておりますし。いじめの実態調査も、当然国に報告しないといけないのだけれども、前回やり直しさせられているね。中間市も調査をやり直したのですか。
片平学校教育課長	精査した結果、5月、4月当初にあげた人数と変わりません。 あくまでいじめの件数ではなく、いじめを認知したかどうかの件数です。だから、非常にささいな人間関係のトラブルをいじめと思ったなら、いじめと認知されます。
松下市長	教育現場、学校の先生たちが認知したということかね。それとも、生徒も含めてそういういじめがあったというその件数になるのだろうか。学校が把握した数字になるのかね。
片平学校教育課長	はい。学校が把握した数字です。毎月アンケート調査や面接も行っています。そして、学年会やいじめ対策委員会を開いて、1件1件これはいじめにあたるのかや、実際に人間関係のトラブルでもいじめにあたるという意識では指導しませんが、人間関係のトラブルがほとんどです。
松下市長	教育長には、足早にそういうことに対応してもらって、私も助かっている部分があるのだけだね。それと、同和問題も含めて、そういう辺りで、中間市は自殺者がいないという1つの誇りになっているわけだから、まあ

しっかり。

衛藤委員

いじめはですね、私が学校にいたときと10年後の今の状況を考えたらですね、学校はものすごく敏感になっています。だから、我々が見逃していた部分は今は見逃されていないと思うから、そういう面で言ったら、いじめに対する対応は、子どもにとっても親にとっても非常に親切になっていると思います。だから、今のところ、学校は非常にきめ細やかにいじめに対応されていると思います。

松下市長

それと、学校の中で精神的に病んでいる先生方がたくさんいるのですか。

増田教育長

今、病気している先生は何人いるかね。

片平学校教育
課長

数人います。今ですね、中間市で1番多いときが10人くらいいました。それで、現在そういった状況がないように、サポート体制ですか、1人で抱え込むと心を痛めますので。そういった先生たちをいつもしっかり見て、そして横についてサポートしようという体制がだいぶできてきているところです。

河本委員長

先程のいじめの件ですが、私の子どもがいじめにあったことがありまして、中間市でもありましたが、中間市での対応はとても良かったです。いじめられやすい子だったのでしょうけれども、市外の高校に行ってひどいことになりましたが、その子に聞いたときに、中間市は本当にそういったことに対する先生の対応が非常に良かったということをおっしゃりまして、少年の主張大会でも、本当に悩んでいた時に先生が声を掛けてくれて立ち直ったという話もありました。先生の対応は非常にいいと思います。それでも、やはりいじめというのは、いつどこで起こるかわかりませんから、私たちも目を光らせていきたいとは思っております。先生方は一生懸命努力をされていると思っております。夏休み前でしたか、そういうときも、気になる子に対して聞き込みをすとか、そういうことがありましたよね。そういうことを細やかにやっております。最大限の努力はこれからも続けられていくと思っております。

松下市長

他に何かありますか。

増田教育長

今回の新規事業は、学校の先生方も多忙で目いっぱいの状況ですから、

なるべく先生たちに迷惑がかからないように、外部にお願いするとかですね、できるところはしっかりと対策を考えていきたいと思います。

中尾委員

よろしいですか。3ページの学力UP推進事業ですが、学校の先生方は、成績がこの中学校は福岡県の以下とかそういうことが出てしまって、どういふふうに対策をしたらいいかというのが、指導の仕方というのがわかっていない部分があると思います。ぜひ学力UP推進事業のAB問題を小学校3年生からということを行っていただきたいと思っておりますので、予算化をお願いしたいと思います。

松下市長

事業を全部終わらせたなら、予算的にいくらぐらいになるかな。

増田教育長

約2,000万円です。

濱田教育部長

私から1点よろしいですか。先程、片平課長からご説明申し上げました、小学生放課後イングリッシュチャレンジスクールですが、場所は、市長室でお話申し上げたのですが、子育て支援センターの2階の会議室が今空いている状況でございます。何回か見に行きまして、どうにか有効利用できないかと教育委員会で考えているところでございます。多方面からそういうお話はあろうかと思いますが、教育委員会としてはそういう方向で動きたいと考えているところです。

松下市長

子育て支援センターはどこの所管かな。

濱田教育部長

こども未来課です。

片平学校教育
課長

子どもたちをそこで学習させることによって、図書館もありますし体育館もありますので、市の施設を子どもたちが使えることは、将来的にも非常にいいことではないかと考えております。

中尾委員

いいですか。最後に、11ページに、中間市民俗資料館の台帳作成事業というのを、今後3年かけてやりたいということでおっしゃられているのですが、何万点もある資料を整理して、その後の活用方法として、子どもたちのふるさと教育にぜひ使っていただきたいと思います。そういう郷土愛を育てるために、何か資料をもとに副教材のようなものを作っていたら、学校で教える授業の資料集のようなもので使っていただけたらと思

います。すぐにはできないことですので、この資料をきっちり整理していただいた後に、そういう活用方法もぜひご検討いただけたらと思います。

古賀生涯学習
課長

はい。それを目的に整理をするわけでもございまして、散らかっているからただ整理するというのではなく、貴重な資料を学校教育や悠々大学とかで使うためにやろうとしていることでもございますので、それはぜひやりたいと思います。

中尾委員

はい。お願いします。

松下市長

資料は、今どこに置いているわけ。

古賀生涯学習
課長

その資料は、市の持ち物のプレハブ3棟くらい、岩瀬と中牟田のプレハブの中、中央公民館にも置かれている状況で整理が行われておりません。それを今非常勤と嘱託職員で少しずつやっているのですが、当然ながら追いつかない状態でもございますので、これを一気に3年間かけて、専用の臨時職員に、整理の仕方やどうすればまとまりやすいかなど、職員が指導しながらやっていくという計画でもございます。

松下市長

中間市の市史編さんした時にいろいろ集めた資料も入っているのかね。

古賀生涯学習
課長

はい。入っています。

松下市長

捨てることができないね。どれだけの価値があるかよくわからないからね。

古賀生涯学習
課長

貴重品があることは間違いないです。古い茶碗だとか、そういう意味でとっているわけではないのですよね。何年前の地層から出たというそういう意味から、この道具があるとかいうことで、ただこれは古いからとかいうことではないようです。

当然、今市長が言われるように、これはとっていてもあまり価値がないとか、古くても弥生とかそういう時代ならわかるけれども、江戸時代とかいうお茶碗なら、ほぼ処分の対象になると思います。よほどいい形以外はですね、かけらみたいなものは。

松下市長

それと、寄贈というか、一時預りのなものもひょっとしたらあるかもし

れないね。そういうのはわかるようにしておかないと。いつ返してくれという可能性があるからね。

河本委員長

よろしいですか。先程の英語授業の件、とてもいいと思うのですが、前回的时候、私がちょっとど忘れしておりまして、はっきり言えなかったのですが、日本語で言えば、50音の「あいうえお」が、英語でフォニックスといって、そういう教材があります。それをどこか学校の中に英語授業をやる上で取り入れていただきたいと思います。

本を買ってきまして、自分であまり見ていなかったのですが、昨日読んでみたら、市長も見ていただきたいのですが、「あいうえお」と一緒に、1つ1つの単語の発音を覚えることによって、英単語すべてが読めるようになるらしいです。それに要する時間が中学校1年生でいえば2学期ぐらいまで、遅くて3学期までかかるらしいです。だから、逆に英語を漠然とやるのではなく、小学校の間にこれを取り掛かりでやらせた方がいいらしいですよ、途中でフォニックスをやらせるよりも。もちろん、私たちも、「あいうえお」を途中から習っても何なのだろうということと一緒に。小学校の間にこのフォニックスを、テープがあるらしいのですが、それを聞かせるだけでも違うっていいですし、見ているとそんなに難しいことではないようです。そして、1つ1つの発音を覚えることによって、英語の発音がこれで随分綺麗になると思います。実際に附設中学などで実行しているらしいので、どこか小学校にフォニックスを取り入れていただきたいなと思います。

片平学校教育
課長

私も勉強不足のところもあるのですが、教育課程の中でどういう位置づけかというところから始めないと、良いから取り入れるということではなくてですね。

河本委員長

それができないことがあるのですか。

片平学校教育
課長

はい。教育課程の中のどこで位置づけ、それを取り入れるか、そして、それをすることによって中学校英語にどう影響があるかとか、そういうところも研究していかなければならないところがあるかと思います。

増田教育長

あまり早く学問的にやり過ぎて、英語嫌いが逆に出てきたりする場合もあるからですね。ちょっとその辺も発音などに合わせて。

片平学校教育
課長

ただ、附設中学校や附設小学校は家庭環境が全く違うというので、小学校低学年から英語の学習塾に行かせる家庭力があるところについては、いち早くそういったことを取り入れてされるところもあるようです。

河本委員長

ただ、本当に「あいうえお」と一緒ですから、そんなに難しいことではないようです。単語を覚えるよりも簡単なことで、東小で実際にこの授業が行われて見に行ったら、生徒たちが喜んで、最初眠そうな子たちがいきいきとやっていました。だから、小学校でたぶん無理ではないと思います。海外では幼児からやらせているらしいですよ、日本人と一緒に。日本人が「あいうえお」を小さいときから習うのと一緒で。これを学べば読んだり書いたり、単語が読めるようになるから、楽しくなるらしいです。日本人が、英語は学問的な知識があってもしゃべれないというのはそこにあると思います。だから、研究して取り入れられるものだったら、私は小学校の間はこれだけやってもいいのではないかと思うくらいです。これを完璧にやらせたら、むしろ中学は楽、中学の先生が楽な思いをされるのではないかと思うくらい良いと思うので、研究していただきたいと思います。

それと、夏休みに英語の合宿をなさるということでしたが、この間たまたまお寺に行きまして、そこで、田川のビートルズのコピーバンドがありますよね、その中の1人が来て演奏して歌ってくれました。その方は英語の講師の資格も持っていて、そして、ビートルズの音楽も英語で歌ってくれましたが、発音は綺麗で、本当に上手でした。音楽そのものも。そして、その方が帰りに婦人会でもなんでも集まりがあったら呼んでくれとおっしゃっていました。

それと安河内先生の話聞きに行っても、東中学校にいらっしゃる英語の先生もそうだったらしいのですが、あともう1人、その方もそうだったらしいのですが、英語は音楽から入ったとおっしゃるのですよね。安河内先生も音楽から入って行って、自分は決して早い方ではなかったと、大学に入る前くらいに英語を始めたとおっしゃっていました。いつからだったか忘れましたが、だから、英語音楽に興味を持つことで、音楽から英語を取り入れて、発音が綺麗ですよ。

フライング・エレファントとおっしゃるのですが、その方もやっぱり音楽が好きなことから英語を学んで、海外のカーネギー・ホールで成功を収めたらしいです。だから、実力も本物で、英語の講師の資格も持っています。そのあと、自分に言ってくださいということでしたので、聞きたかったのですが、そのとき時間がなくて、今日お寺に問い合わせしてみました。そうしたら、講師料はいくらでもかまわないとおっしゃったらしいで

す。だから、お寺の方がもし使われる場合は交渉しますということなので、ぜひ英語合宿にこういう方を取り入れて、本物のビートルズに近いようないい音楽を聴かせて、そういうことによって、英語に興味を持っていく。私は小学校の間はそれが大事だと思います。評価したりするよりも、英語をまず好きになるようにさせないと、安河内先生もそれをおっしゃっていました。好きにならないと何にもならない、いつでも勉強するチャンスがあると。まず好きになることだとおっしゃっていましたので、こういうことも取り入れたらどうかなと思っております。もしよろしかったらお願いします。

古賀生涯学習
課長

はい。フライング・エレファントさんはよく知っております。毎年1月か2月に、なかまハーモニーホールにお見えになっています。毎年、ミュージックナイトかなんかという形で、市役所のOBの方が窓口になられて、昭和町にある石田蒲鉾店さんがいますよね、あちらは、弟分みたいな形になってですね、合同でやられていますし。私たちもよく聴きに行ってますね、お上手なことは本当。ただ、今までは、私たちは音楽としてしか知りませんでしたけど、そういうふうな形で英語教育の方面でもご協力いただけるということでありましたら、ぜひ、また連絡をとりながら、ご相談したいと思います。

河本委員長

はい、よろしく願いいたします。

増田教育長

小学生の場合には、日常の会話というか、授業ではなくて、そういう身近に接する形から英語を始めさせるのがよいと思います。

古賀生涯学習
課長

座ってホワイトボードというのは1番おもしろくない。横に並んでとか、人参を切る、まな板をとる、包丁でカットする、それをとれ、水を入れろ、そういう形の中からですね。それこそ、夜に、座談会の中で、その歌を入れたビートルズを聴きながら、英語の発音でという形もいいかと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

河本委員長

子どもはどこで伸びるかわからない。それを聞いてそこから音楽家になったり、本当に良い方向に行ったりすることがありますから、大人は、子どもに勉強しなさいと言うのではなくて、いろいろなチャンスを与えることだと思います。だからよろしく願いいたします。

衛藤委員

今、英語の話がでていますが、たぶん、オリンピックのある年に、ものすごく英語があちこちから強く叫ばれるだろうと思います。そういうことを考えたら、今からの人は、英語が非常に役に立つというふうな考えを持つと思います。

小学校も、平成32年、2020年度から、小学校5年生と6年生は、英語を3時間にして、しかも、点数をつける、評定をするということを、文科省は今考えているから、そういう面で、中間市がまず先取りをするということは、非常に中間市の宣伝効果になる。市長がそういう教育に対して非常に力を入れてあるというふうな形で、あちこちにも浸透するから、私は大変素晴らしいことだと思いますので、この事業が全部通ればいいなというふうに思っています。

河本委員長

実際、光貞小学校や高須中学校あたりは、学力が伸びたことで、随分住民が引っ越してきたそうです。だから、中間市も学力が伸びれば、市が活性化しますので、お互いに協力して、ぜひ教育の方にも力を入れてくださるようよろしくお願いいたします。

濱田教育部長

はい、よろしいですか。

市長、教育委員の皆様方、活発な議論をいただき、ありがとうございます。次回の会議は、来年度を予定しております。日程が決まり次第、お知らせいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、平成27年度第3回中間市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

[閉会時刻：午後3時55分]